

取組み報告書

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【有限会社 松永メディコ 医療連携型有料老人ホームゆ〜とぴあ】

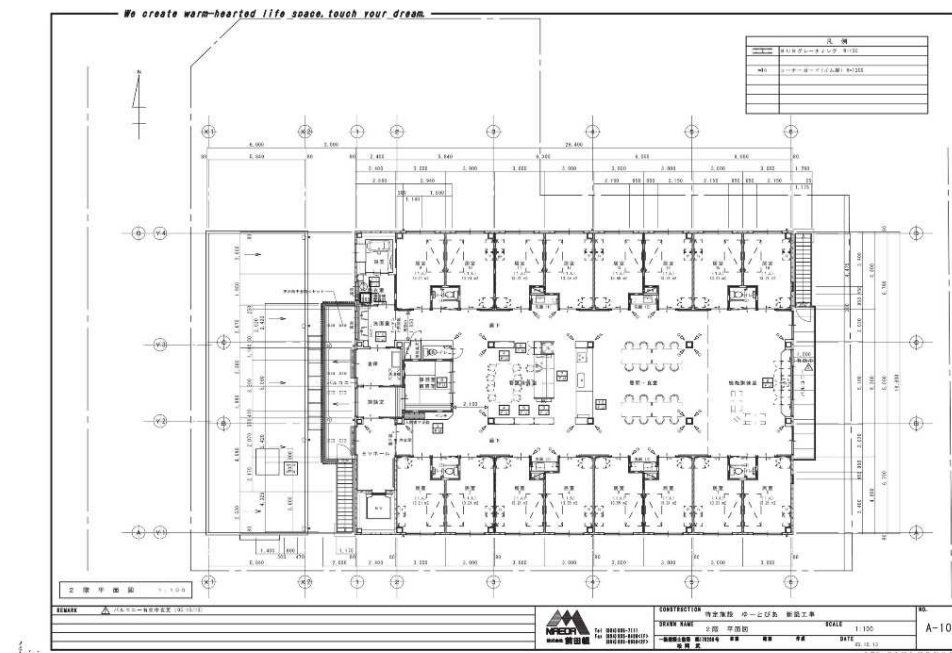
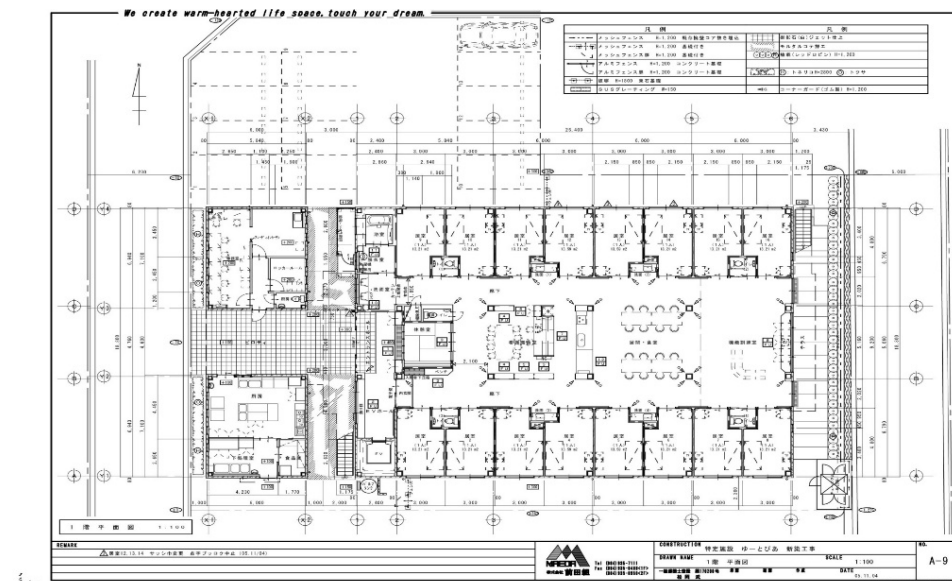


一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要



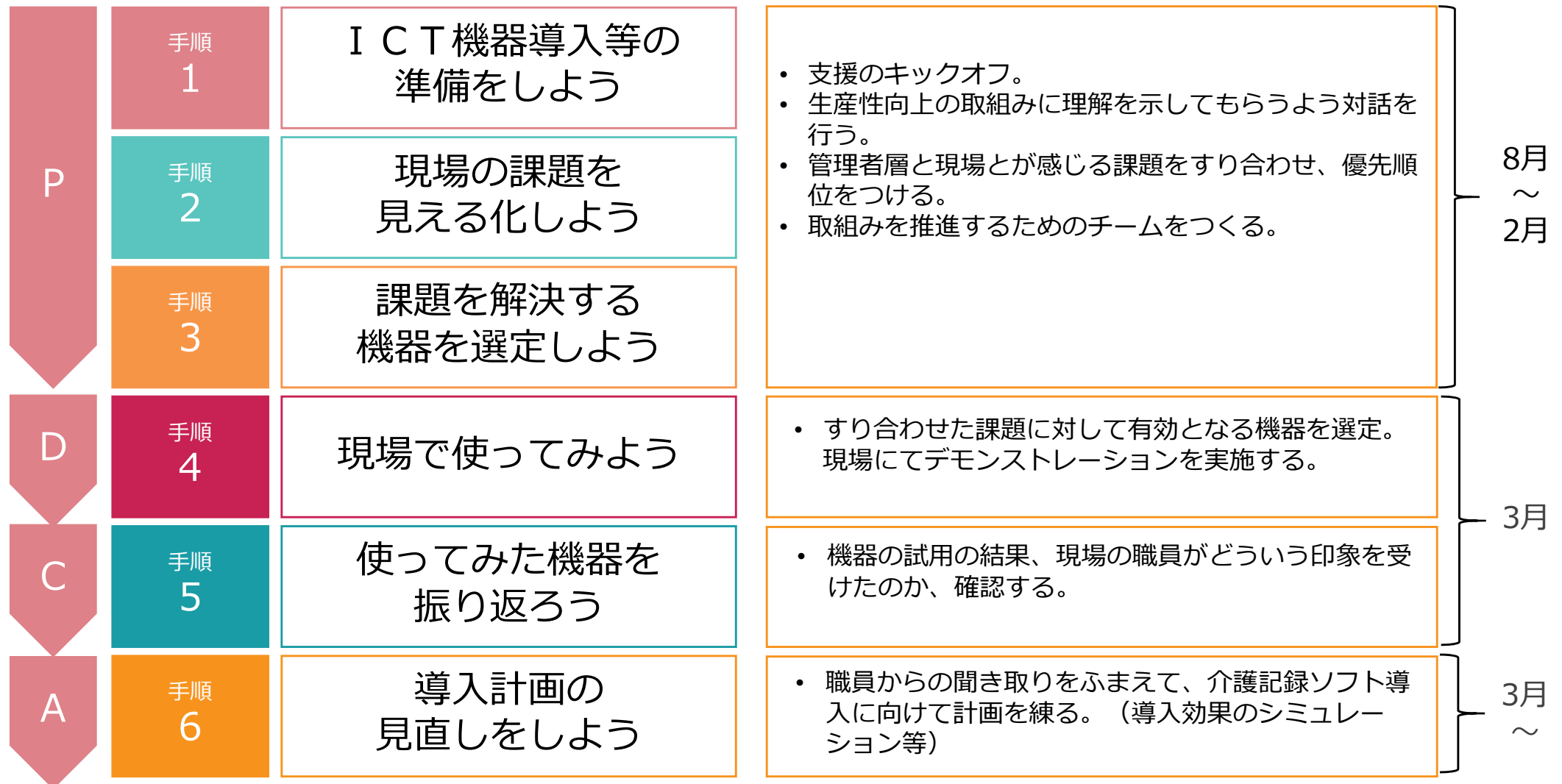
施設名	医療連携型有料老人ホーム ゆ〜とぴあ
施設種別	特定施設入居者生活介護
定員	32名
開設日	2006年4月1日
所在地	福山市松永町5丁目23-30



取組みの流れ

取組の流れ

具体的な取組み内容



手順1 ICT機器導入等の準備をしよう

実施内容

- 取組みのキックオフとして、各ガイドラインに示されている流れを把握。
- どのようなことをしていきたいのか、希望を確認。（管理者ベース）
- 管理層から見た希望と現場の課題とがリンクしているのか、ヒアリングを実施。



手順2 現場の課題を見える化しよう

実施内容

- 現場職員にヒアリングを実施し、課題を把握する。

見える化された課題

- 見守りセンサーを一部導入しているが、十分に活用できていない。
- 見守りセンサーにカメラ機能を付けておらず、映像にて状況を確認することができない。
- 巡視コースの削減が行えていない。
- 記録が独自のエクセル管理となっており、効率的でない。
- その場の記録は全て手書き。転記が発生している。

(考察)

見守りセンサーにカメラ機能があれば、現在所持しているモバイルデバイスで物事の優先順位をつけることができないか？

記録ソフトを導入することで、煩雑な転記作業を減らし、業務の効率化を行うことができないか？

手順3 課題を解決する機器を選定しよう

今回選んだ解決したい課題

- ・ 介護記録ソフトを導入し、手書きの記録をやめる。

その理由・背景

- ・ 管理層と現場との共有の場で、記録業務の改善が、現状最も優先順位の高い解決課題であると共通認識を持った。

課題に対する現状

- ・ アナログ管理は限界を迎えており、職員の業務負荷が高い。
- ・ 導入したいが、どういうソフトがあるのか分からない。ランニングコストも抑えたい。

解決した後の姿（目標）

- ・ イニシャル、ランニングともにコストを抑えながら運用することが可能な介護記録ソフトを導入し、現場の記録に関する負担を軽減する。

手順4 現場で使ってみよう

実施内容

- 介護記録ソフトの体験版を1週間程度試用。現場にて操作感を体験する。

体験機器（ケア樹） URL : <https://caretree.jp/>



手順5 使ってみた機器を振り返ろう

使用した結果（所感）

- 実際に試用した職員へのヒアリングを通して、所感を収集。

集まった現場の声

- 現在の運用と比較し、入力がとても簡単。
- 音声入力も対応しており、P C入力が苦手な人でも対応できた。
- お試しではタブレット1台のみであったが、これを複数台導入すれば、現状の記録を入力するための待機時間も削減でると思う。
- そうなると、残業が減ったり、利用者のケアにあてる時間が増えると思う。
- せっかく覚えたのに、また一から覚えなおさないといけないのはちょっと。
- 転記や入力漏れも減ると思う。
- 機器になれる時間が必要。

**（一部変化を苦手とする職員はいるが） 職員の反応は概ね前向き。
介護記録ソフト導入を念頭に、生産性向上の取組みを推進していきたい。**

手順6 導入計画の見直しをしよう

振り返りを踏まえた今後の活動

- 補助金の利活用を視野に入れ、機器導入に向けた取り組みを加速させる。
- まずは、令和6年度介護テクノロジー導入支援事業実施要領を参考資料に、機器導入計画の立案とブラッシュアップを行っていく。

全体の総括（導入チームから）

- 最初は職員の反応や、また変わるの？といったネガティブな意見も聞こえて、どんな機器かも想像つかず不安が大きかったのですが、実際ケア樹を使ってみて操作が思ったより簡単だったことで職員の不安も軽減されたように感じました。
- 現在使っている書式が変更になることや、新しいことを導入することに不安な職員もいますが、変更したくない部分はそのままで便利な部分だけ活用しながら、導入の方向で進めていきたいと考えます。
- まだまだいろんなハードルは高いですが、今後の介護は便利ツールを使いながら、人の手を省けない部分は人の手で、新しい介護の形を作れたらと考えます。

まとめ

全体を通してのコメント（アドバイザーより）

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。推進する責任者の方がお忙しい中、生産性向上の取り組みを行われるのは、大変なことと存じます。

ガイドラインには「準備8割」や「チームビルディングの重要性」について記載がございます。現場職員の方や経営層の方等、一人でも多く方を巻き込んでいくことが、大変ながらとても重要なファクターになろうかと考えます。

焦る必要は全くありませんので、引き続き対話を通じて、成果の実感できだろプランを、皆で一緒になって立案してみてください。

引き続きよろしくお願いいたします。



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック